

第3期大野城市上下水道事業運営審議会（第1回） 会議録	
日 時	平成30年3月9日（金）13：50～14：45
開催場所	市庁舎3階 庁議室
出席者	審議会委員：広城会長、鳥居副会長、小原委員、高原委員、田口委員、西本委員 以上6名 上下水道局：児玉上下水道局長、原田企業総務課長、中野上下水道工務課長、 松竹料金施設課長、多々良浄水課長、他8名（係長、担当）以上13名
欠席者	斧田委員
傍聴者	なし
議 題	① 大野城市上下水道事業運営審議会の運営について（資料①） ② 人口減少と上下水道（資料②） ③ 上下水道ビジョンと中期経営計画の位置づけ及び平成30年度審議会のスケジュールと内容について（資料③、資料④）
資 料	① 【資料①】大野城市上下水道事業運営審議会の運営について ② 【資料①-1】大野城市上下水道事業運営審議会条例 ③ 【資料①-2】関係例規等の抜粋 ④ 【資料②】人口減少と上下水道 ⑤ 【資料③】上下水道ビジョンと中期経営計画の位置づけ ⑥ 【資料④】平成30年度審議会のスケジュールと内容
議 事	<p>◇開会の挨拶（原田企業総務課長より）</p> <p>◇傍聴人の確認（傍聴人なし）</p> <p>◇会長及び副会長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長→広城委員 ・副会長→鳥居委員 <p>◇事務局自己紹介</p> <p>◇議題</p> <p>① 大野城市上下水道事業運営審議会の運営について【資料①】</p> <p>（市）資料①に沿って、審議会の所掌事務、委員の任期、審議会の公開等について、説明。</p> <p>◆質疑 （質疑なし）</p> <p>② 人口減少と上下水道【資料②】</p> <p>（市）資料②に沿って、人口減少と上下水道について説明します。</p> <p>この資料は、今後、新しい計画を策定するにあたり、踏まえておく必要があると本市が考えている内容についてまとめたものです。</p> <p>上下水道事業に課せられているものには、水道水の安定供給、汚水の適切な処理、施設の耐震化、耐用年数を迎える老朽施設の更新等があると考えて</p>

います。

これらを実施するための原資となる主なものが料金収入（使用料収入）となりますが、人口減少や節水機器の普及により確実に料金収入は減少することが見込まれます。

人口推移の実績と推計については、資料のとおりです。福岡県では、予測に反し、県全体の人口は増加していますが、その増加のほとんどは福岡都市圏に一極集中している状況です。

本市の人口の実績は、約 10 年前に本市が推計した人口推移（平成 30 年度に推計を見直す予定）より下回っていますが、国が示している人口推計より上回っており、もうしばらく人口増加が続くのではないかと考えられています。ただ、いずれ人口は必ず減少していくのは確実であると思います。

人口減少が上下水道事業に与える影響としては、ひとつには水の使用量の減少に伴い料金収入の減少があります。現在の見込みでは、2025 年をピークに減少していくと見込んでおり、このことが上下水道事業の経営に大きな影響を及ぼすと考えています。

また、その他の影響としましては、人口が減少したとしても、給水・汚水区域は変わらないため、施設の減少には繋がらず、経費は継続的に必要な点です。

このような問題がありますので、本市においては、施設の効率化や更新費用を平準化するという目的で、平成 28 年度に「水道施設再編計画及び更新計画」や「下水道ストックマネジメント基本方針」を策定しております。

平成 30 年度の審議会においては、平成 31 年度からの 10 年間の方向性をまとめる「大野城市上下水道事業ビジョン」及びビジョンの方向性を実現するために具体的な取り組みを示す「上下水道事業第 3 次中期経営計画」に対するご意見をいただきたいと考えております。

平成 31 年度以降については、上下水道事業の経営状況や中期経営計画の進捗状況等に対するご意見をいただきたいと考えています。

最後に、長期ビジョン等に入れるかどうかは別として、本市においても施設の共同設置や水道広域化等は、社会情勢や財政状況等を踏まえると、将来検討しないといけない事項であると考えています。

以上で説明を終わります。

◆質疑

(質疑なし)

③ 上下水道ビジョンと中期経営計画の位置づけ及び平成 30 年度審議会のスケジュールと内容について【資料③、資料④】

(市) まず、上下水道ビジョンと中期経営計画の位置づけについて、説明します。

上下水道ビジョンは、将来を見据えた上での今後 10 年間の方向性をまとめたものとなり、計画期間は平成 31 年度から平成 40 年度までとなります。

上下水道ビジョンは、市の方向性を示した第 6 次総合計画を上位計画とし、国の方向性の趣旨やこれまでの取り組みの検証を踏まえ、策定します。

上下水道事業第 3 次中期経営計画は、上下水道ビジョンの方向性を実現するための具体的な取り組みを示すもので、計画期間は平成 31 年度から 5 年間としています。

平成 30 年度の審議会のスケジュールと内容については、資料④のとおりで、平成 30 年度は年 4 回の開催を予定しております。最終的には 12 月に市長に答申を行えるように進めさせていただきたいと考えています。

◆質疑

(委員) 5 年ごとに第 3 次と第 4 次に中期経営計画を分けて策定するのには、何か理由があるのですか。

(市) 10 年間の計画であります上下水道ビジョンでは今後の方向性を示すもので、具体的な取り組みについては、中期経営計画で示す予定としております。具体的な取り組みに関しては、随時、社会情勢や財政状況等の変化に対応するためにも 5 年間で策定し、見直しを行う予定としております。

(委員) 上下水道ビジョンに関してですが、上水道と下水道を一緒にして考えた方がいいのですか。分けて考える必要はないですか。

大野城市の上水道と下水道の緊急度（優先度）がどのような状況かで、一緒にして考えるべきか、分けて考えるべきかが変わってくると思います。上下水道のどちらかがより緊急度があり、先に考えないといけない状況であれば、上水道と下水道は分けて考えた方が良いのではないかと思います。

(市) 上水道と下水道のどちらを優先して取り組むという考えは、現時点ではありません。どちらともにそれぞれ課題があり、取り組んでいかないといけないと考えています。上下水道ビジョンについては、上下水道ともに共通する事項と上下水道それぞれに対応する事項でまとめる予定としております。

(委員) わかりました。

(委員) 予定の議題が終わりましたので、以後の進行を事務局にお返しします。

◇事務連絡

次回審議会予定：6 月下旬～7 月

◇閉会の挨拶(児玉上下水道局長より)

以上